



大洲高校PTA月報

平成30年2月号

会員寄稿

『無形の資産 友人関係』

PTA副会長 和氣 由希

昨年度、豫章館で開催された総務研修委員会で、役員さんの中に聞き覚えのある洪い声が…。私が高校1年生時の生徒会長さんが、保護者として高校に戻って来られていました。当時は話すことなどできない、ただ見ているだけの先輩とお会いすることができ、とても嬉しかったです。

そして今年度5月には、参観授業とPTA総会・理事会が開催されました。子どもの参観授業を終えてバタバタと体育館へ移動中、渡り廊下で多くの保護者の中から一瞬視線が絡んだお母さん。そのお母さんは、高校を卒業して再会した同級生でした。30年前の記憶が甦り、話をした数分間は高校時代の気分になっていました。

私は高校からの出会いに恵まれ、同級生、先輩・後輩と関わりを持ちながら過ごしています。高校時代にほとんど話すこともなかった男子達も、おじさんになると不思議と自然に話をしていました。そしてPTA活動や仕事・地域行事を通じ出会えた人との関係を、温かみのある「大切なもの」と感じています。

「大切なもの」と考えるきっかけになったのは、『LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略』という本でした。大切なものと言えば…お金？ お金は有形の資産で、様々な物と交換することができ、私たちの生活を豊かにしてくれることは間違いありません。金銭的資産が乏しければ、不満が生まれまます。しかし、人生に満足している人に共通する際立った要素の一つは、人間関係を築いていることだそうです。「無形」の友人関係や知識・健康を「資産」とは考えにくい事ですが、ハーバード大学で75年間追跡調査した研究によると、友人関係、パートナーやその他の家族との良好な関係を潤沢に蓄えていることは、良い人生に重要であると述べられています。

高校を卒業して数十年経過しても友達との再会があり、止まっていた30年前の友人関係もまた繋がってきます。これからも出会いを大切に、気持ちを豊かにしてくれる友人関係を築ければ良いなと思います。最後に、保護者として大洲高校に戻り多くの方と出会えたことを感謝申し上げます。



【1983年3月 卒業アルバムより】